

②7トレンドで「伝わる」大雨への備え ～ピクトグラムやあつ森で住民避難を後押し～

受賞機関 一般社団法人 中部地域づくり協会

キーワード 防災啓発ツール、伝わる啓発、ピクトグラム、デジタル展示館

全建賞審査委員会の評価ポイント

ピクトグラムなど、トレンドのツールを活用した防災啓発の取組。コロナ禍における防災啓発の機会減少に対して、ピクトグラムを作成するなど、効果的であるとともに全国に展開可能な取組である点や、白黒写真からカラー写真への変換による災害記憶の伝承へ視点が評価された。

1. はじめに

新型コロナの影響により、対面で「伝える」手段が減少した。この社会の変化を捉え、「伝える」から「伝わる」ことを意識し、トレンドのツールを活用し、一人でも多くの人が円滑に逃げられるよう、大雨の事前の備えや早期避難を後押しする様々な防災啓発ツールを制作・公開した。

2. 事業の概要

1) 「大雨にソナエルピクト」で備えと避難行動をチェック

東京オリンピックで話題となったピクトグラムをヒントに、大雨の事前の備えと早期避難を促す「大雨にソナエルピクト」を制作し、誰でも自由に活用できるよう当協会ホームページで公開した。図柄は8種類用意し、活用の促進を図るため、チェック欄や避難場所の記載ができるスペースを配置したチェックリストとしても公開した。制作にあたっては、若い感性を取り入れる目的で、高校生の意見も聴取した。

2) 「あつ森」で避難を学ぶ

令和3年5月に避難情報に関するガイドラインが改定

ソナエルピクト



上：大雨にソナエルピクト 下：あつ森動画を見る児童

されたことも踏まえ、改めて防災に関心の薄い若年層(特に小中学生)に水害時の早期避難に関心を持ってもらうことを目的に、人気ゲームソフト「あつまれどうぶつ森(あつ森)」を活用した避難について学べる動画を制作し、動画共有サイトで公開した。

3) 昭和レトロな空間で防災に触れる「デジタル展示館」

バーチャル空間で展示物を自由に見て回ることができる「デジタル展示館」を制作し、ホームページ及びスマホアプリで公開した。レトロブームとして話題となっている昭和レトロな空間で自然災害のパネル展示や液状化実験などの防災啓発動画の上映を見ることができる。中部地方は昭和30年代に大規模水害が多く、遠い昔の事として捉えられてしまうため、パネル展示では、当時の白黒写真をカラーにすることで身近に感じて貰える工夫をしている。



デジタル展示館

3. 事業の成果

「大雨にソナエルピクト」は、多くの報道機関やネットニュースに取り上げられたことから、広く認識されるものとなってきており、関係機関主催のイベントで紹介するなど連携した取り組みも進めている。「あつ森」は、防災講座での生徒の反応も良く、「頭に入ってきやすいし、面白くて分かりやすかった」などの声も聞かれ、今後、学校の授業での活用も期待が出来る。「デジタル展示館」は、白黒写真からカラー写真への変換を、自らスワイプすることで行え、楽しみながら防災を学ぶ事で若年層の反応も良い。また、高齢者には当時の記憶がよりリアルによみがえることから、災害記憶の伝承にも繋がる。

4. おわりに

今後は、障がいのある人や外国人にも伝わるよう、多様性を意識した取り組みや、非接触型のSNSを多面的に活用するなど、特に防災に関心の薄い人に向けて、さらに多くの人へ伝わる啓発を展開していきたいと考えている。